

外務省国際協力局次長 パオラ大使

国家計画・経済企画省 オスカー調整官

日本国大使館 松本勝弘参事官

コスタリカ野球連盟 ルーベン副会長

サントドミンゴ野球協会 ガブリエラ会長

アラフェラ野球協会 ファン会長

スポーツ庁計画局 エンシイ様

ご列席の皆様

こんにちは。JICA 青年海外協力隊の着任式にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

サントドミンゴ野球協会およびコスタリカ野球連盟、コスタリカ外務省、MIDEPLAN、コスタリカスポーツ庁の皆様、今回の野球隊員の受け入れにあたっては大変お世話になりました。

既にご存じの通り、野球というスポーツは日本ではとても盛んにおこなわれてます。2006年から開催されている野球

の世界一を決めるワールドベースボールクラシック大会では、過去6回開催された内、3回、日本が優勝しております。日本においては、単なる技術を競うスポーツではありません。礼に始まり礼に終わる、野球道具を大切にする、チームワークといったまさに日本文化を象徴する競技として、150年以上前から日本社会で育まれたものです。

当地における国際協力や青年海外協力隊員の派遣は1974年から始まりました。その5年後、1979年からは文化青年スポーツ省に野球隊員の派遣も開始されました。以来、今回着任された野球隊員まで108名が野球を通じたコスタリカと日本の信頼関係を築きあげてきました。コスタリカで野球を指導された隊員は、今では日本プロ野球機構の事務局長や、日本やアメリカのプロ野球球団やアマチュアチームで活躍されています。

そして2016年からは、桜美林大学との野球に関わる連携プログラムが始まりました。私は、JICA本部でこのプログラムを開始した者として、こうやって当地で受け入れることができ、光栄に思います。今回派遣された方々を含め、計8回、86名の野球隊員が地方巡回も含め多くのコスタリカ人と一緒に汗を流してきました。

桜美林大学は、建学の精神として「キリスト教精神に基づく国際人の育成」を掲げています。また、日本でも有数の野球の強豪校でもあり、その指導力にも定評がございます。

コスタリカの皆様と共に野球技術の向上が図られていくことを願っています。これからの一か月間の活動では、地方での指導も含まれますし、隊員はホームステイで生活されます。野球技術指導にもまして、一人でも多くのコスタリカ人と隊員との信頼関係が培われることを期待しています。

ありがとうございます。